

# 小林恭子の ロンドン発 グローバル随想

第40回

## ロシアで起きていること を追体験する



イラスト・題字：長峯亜里

ロシアが隣国ウクライナに全面侵攻してから3年余。4年目になる来年2月までには終結の見通しが立つかどうか、心もとない日々である。

ロシアに住む人はどのような思いでウクライナ戦争の展開を受け止めているのか。プーチン政権下のロシアの現状についてはどう思うのか。示唆を与えてくれた最近のイベントとドキュメンタリー映画を紹介してみたい。

### 亡命ジャーナリストたちの声

ロシアの情報機関の活動に詳しいジャーナリスト、アンドレイ・ソルダトフ氏は、2000年にパートナーの



アンドレイ・ソルダトフ氏

イリーナ・ボロガニ氏と共に独立系調査報道サイト「Agentura（アゲントゥーラ）」を立ち上げた。「Agentura」とは、「情報網」あるいは「スパイ網」といった意味である。サイトを通じて政府や治安当局の活動を詳細に追い、一般には知られにくい情報を提供してきた。



イリーナ・ボロガニ氏  
(いずれも筆者撮影)

2020年9月、ソルダトフ氏はボロガニ氏とともにロシアを離れた。国内での報道・

情報活動に対する圧力・監視が高まり、銀行口座も凍結されて、事実上、活動を停止せざるを得なくなったためだ。

2022年2月、ロシアがウクライナに全面侵攻すると、「Agentura」は数回にわたって当局にブロックされ、ソルダトフ氏は「ウクライナでのロシア軍に関する虚偽の情報を広めた」という刑事容疑で、ロシア国内および国際的な指名手配リストに載せられた。

今は英国に住むソルダトフ氏はボロガニ氏と共に数冊の本を出版してきたが、最新刊が『Our Dear Friends in Moscow（モスクワにいる私たちの親愛なる友人たち）』である。新刊紹介も兼ねてロシアの現状について語るイベントが10月14日、ロンドンのコンドュット・クラブで開催された。新刊は両氏がモスクワの新聞記者だった時の上司や同僚が今はどうなったかをつづる。かつては一緒に働いていた仲間がなぜプーチン政権と同調するようになったのか。「一番衝撃的だったのは、20年以上も公私ともに親しくしていたジャーナリスト

